

CIGS エネルギー環境セミナー
「年縞から見えてくる、気候変動の「リアル」な姿
－湖底の泥に刻まれた詳細な歴史－

日 時	2019年5月16日（木）15：30－17：00（受付開始15：00）
会 場	キャノングローバル戦略研究所 会議室3 （東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル11階）
講 師	中川 毅（立命館大学教授、古気候学研究センター長）
モデレーター	杉山 大志（キャノングローバル戦略研究所 研究主幹）
言 語	日本語

講演概要

有史以前の気候変動について理解するには、地質学的なアプローチが必須である。しかし、従来の地質学は、数年～数十年といった、人間にとって切実な時間スケールを扱うことをどちらかといえば苦手にしてきた。このことは、直近の未来予測を行おうとする上でも、大きな足かせとなっていた。

「年縞（ねんこう）」と呼ばれる特殊な堆積物が、このような状況に風穴を開けるかもしれない。福井県の水月湖にある年縞堆積物の中には、過去7万年の気候変動の歴史が、一年ごとに詳細に記録されていた。年縞を通して見えてくる「今と似ていない時代」について、当時を生きた人々の視点から概説する。

プログラム

15:30-15:35	趣旨説明 杉山 大志（キャノングローバル戦略研究所 研究主幹）
15:35-16:15	講 演 「年縞から見えてくる、気候変動の「リアル」な姿 －湖底の泥に刻まれた詳細な歴史－ 中川 毅（立命館大学教授、古気候学研究センター長）
16:15-17:00	質疑応答と討論 モデレーター：杉山 大志

講師紹介

中川 毅 立命館大学教授、古気候学研究センター長

1968年東京生まれ。京都大学理学部卒業、エクス・マルセイユ大三大学（仏）博士課程修



了。Docteur en Sciences（理学博士）。国際日本文化研究センター助手、ニューカッスル大学（英）教授などを経て、2014年より立命館大学古気候学研究センター長。専門は古気候学・地質年代学。気候変動の詳細な「タイミング」と「順序」の復元を通して、変動のメカニズムに迫ることを目標としている。趣味はオリジナル実験装置の発明。2013年大和エイドリアン賞受賞。2017年「人類と気候の10万年史」で講談社科学出版賞受賞。